

私が実習前に掲げた目標は3つある。「全力で」「積極的に」「後悔しない」。私は実習を通してこの3つの目標は単に達成すべきものとしてではなく、私を支えてくれたように思う。たった3週間の中で何ができるか。手を抜こうと思えば抜ける場面はたくさんあった。けれども、私は本当に毎日毎日「全力で」取り組んだ。科目担当教員に「少しぐらい手を抜いても大丈夫やで。」とちやかされる時もあった。HR担当教員には「いつか倒れるんじゃないかと心配やった。」と手紙をもらった。正直毎日家に帰ると、ご飯を食べる気力も無いくらいへとへとだったし、気がつけば朝だったこともざらだった。それでも「全力で」のぞんだのは、生徒自身が「全力で」私と関わってくれるから。真剣に真面目に私の授業に取り組んでくれるから。手を抜くのはとても失礼なことにように思えた。私が頑張っていると、生徒はそれを素直に評価してくれた。だから手を抜いて生徒をがっかりさせるのが怖かった。それくらい私は生徒が大好きだった。生徒もとても私になついてくれた。それは初日から私が「積極的に」生徒とコミュニケーションを取ったからだと思う。教育実習事前指導の中で、3週間がいかに短いか先輩のレポートを通し知っていたし、実際に先輩からも個人的に話をきいていた。後悔するのだけは嫌なので、とにかく「積極的に」どんどん声をかけていった。結果として生徒との関係は良好だった。しかし近すぎて私の注意をかわされたり、受け流されたりして悩んだことは多かった。もっと距離をとるべきだったのかと反省したこともあった。けれども、自分の悩みを打ち明けてくれたり、クラスで起こっている問題について相談してくれる子もいた。それを思い返してみると、あの時頑張って近くなって良かったと思う。中でもある男の子には手を焼いた。せっかく教室が静かになっても急にさわいだり、立ち歩いたり、放課後部活に行かず「先生としゃべりたいねん。」と教室に居座ったりしていた。どれだけ注意しても好きなようにするので本当に悩んだ。彼は私を困らせたいとか、他人に迷惑をかけようとしているのではないというのが、彼と接しているうちに気付いたから余計にどう接したら良いのか悩んだ。ある日ふと、実はさみしいのではないかと思った。もしかして構ってほしいのかと。それからいつもより余計にその子に接していると、驚くことに素直に私の言うことに従ってくれるようになった。私の大事な研究授業においても、みんなの先頭を切って発表してくれたし協力してくれた。そして最終日には、いつものように教室に残って「オレ決めた。先生なるわ」って言って珍しく部活に行った。本当は生徒とコミュニケーションを取るのはしんどかった。生徒はみんな気分屋でその日その日で態度が異なるため、しんどいなあと感じる事が多かった。でも、最後、何回も私を悩まし、泣かせてきた彼が今度は私に「達成感」というカタチで返してくれ、私の胸はいっぱいになった。

実習を通し、一生懸命「全力で」「積極的に」取り組んでいると、きっと誰かは見てくれていることを学んだ。生徒は純粋で真っ白だ。だからこそ「全力で」ぶつかってくる人間に対し「全力で」返してくれるのだと思う。私は教生として教える立場でありながら、本当にたくさんのことを教えてもらったように思う。私はこの3週間で泣き笑い、生徒と一緒に作り上げた学校生活を忘れず、常に生徒を思いやれる教員になりたいと思う。